

えるような仕組みに改善するよう提言されてきました。制度の改善のためには、民法改正が必要となりますが、令和4年度にそのための研究会も立ち上がり、実現までには5年くらいかかるものの、地域の中でチームとして障がいのある人を支え、見守っていく仕組みを構築できるよう進めていくとのことでした。

中央情勢報告の後には「奈良医療物語」と題し、これまで奈良県手をつなぐ育成会で課題としてきた地域での医療事情について、県での障がい者医療施策を振り返るとともに、新型コロナウイルスをはじめとした直面している課題も含め、地域医療体制の構築についての問題提起がありました。そして、親がいなくなっても地域で安心して医療が受けることができるように、親の願いや声をカタチにしていく活動、それが育成会活動であることを認識できたと話されました。その後には、奈良県域でのさまざまな暮らしの場面における医療の課題について話題提供がありました。

1つ目は、「医療ワーキングチームの取り組みとコロナ禍での対応(大和郡山市の取り組み)」として、社会福祉法人大和郡山育成福祉会ひかり園の統括施設長 竹内 聖典 氏から、大和郡山市の自立支援協議会での取り組みの発表がありました。

大和郡山市の自立支援協議会では、各種部会があり、その中の暮らし部会に医療ワーキングチームがあるようです。チームとして、地域で安心して暮らすことができる地域づくりや生活の中での医療にかかる不安の軽減に向けて具体的な取り組みをされているとのことでした。また、市内の医療体制の実態把握と課題をアンケート調査から見つけ出し、医師会や歯科医師会との懇談を重ね、医療従事者に障がい特性を知ってもらうために啓発冊子を作成したという報告でした。

2つ目は、「やすらぎの丘・たかとりワークスの医療的ケアと日中活動の保障の取り組み」として、社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会の相談支援専門員 北 好美 氏から、相談支援専門員として関わった在宅医療の実践例の発表がありました。

今回取り上げられたのは、劇症I型糖尿病になった、知的障害、自閉症、てんかんもある療育手帳A1所持者の40代男性の方の事例でした。劇症I型糖尿病というのは、突然に膵臓のインスリンを作る細胞が破壊され、あっという間にI型糖尿病を発症する病気です。治療は、もちろんインスリン注射が中心となり、それまで入居されていたGHの介護職員では注射をする医療行為はできないため、一旦退所して自宅に戻り、家族(主に父親)がインスリン注射をして対応してい

ました。父親が体調を崩し入院した時は、看護師のいる施設で短期入所を利用しましたが、入所を検討した施設では、24時間常駐している看護師がいないということで対応は難しいと言われました。両親の高齢化により在宅での生活が困難になる中、本人が医療的ケアを受けながら、今までのように地域で生活できる場所を確保するため、相談支援専門員が情報収集と医療機関との交渉を重ねていきました。例えば、訪問看護が毎日利用できれば、GHに入居することができるのですが、医療保険の利用日数は週3回と限度があり、特例はあるものの該当せず、様々なところに相談するも制度の壁がどうしても超えられなかったそうです。そこで、ひとまず訪問看護を週3回、GHを週3日利用とし、残りの4日は自宅で生活することにしました。それから1年ほど経過した頃、GHから自宅に戻られる時に自動車の接触事故に遭い、手術やリハビリのため7カ月間の入院となりました。入院期間中も血糖値は安定せず、退院後を考えて時に、今までのような自宅に帰る生活よりもGHで毎日健康管理を行った方が病状も安定するかもしれないと考え、思案する中「40代なら特例ではあるが介護保険が利用できるのでは」という情報を得て、特例利用が認められ訪問看護を毎日利用できるようになりました。一方、訪問看護を利用することで、行動範囲が限られ自由に外出できないといった課題が出てきたため、インスリンを持続的に注入する小型ポンプを本人に携帯してもらう「インスリンポンプ療法」を導入することになりました。これにより介護保険の更新はせずに医療保険で訪問看護を利用してインスリンポンプの管理を行い、地域での生活を継続されているとのことでした。

3つ目は、「施設でのコロナ感染症発生の対応」として、社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会 理事長 山岡 亨 氏から、施設入所支援たかとりワークスで発生したクラスターの事例発表がありました。

最初に事業所の事務系職員が発症し、その後すぐに職員全員のPCR検査をしましたが、その時は全員陰性でした。しかし、その1週間後に利用者が発熱し、医療機関を受診するのですが、「まさかコロナではないだろう」との思いから、職員も含めて4人が一緒に車に乗っていたそうです。施設では、隔離対応をしていたものの同日昼には、現場職員が体調不良となり、PCR検査の結果も陽性でした。その職員は、利用者の活動や送迎等様々な対応をしていたため、より感染が拡大したのではないかと話されていました。また、PCR検査は、結果が判明するまでに日数を要するこ